

第4期(令和6年度)消費生活eモニター 第7回アンケート集計

1 調査趣旨

SDGsとは、貧困、紛争、テロ、気候変動など、様々な社会的課題の解決に向けて、「誰一人取り残さない」をキーワードに2030年までに達成すべき17のゴールが定められた持続可能な開発目標のことで、2015年9月の国連サミットで採択されたものです。国や地方公共団体、企業、消費者等が連携・協働し、取組を進めていくことが必要とされています。

昨年度、消費生活eモニターを経験された第4期消費生活eモニターを対象に、**その後のSDGsに関する取組の実態と意識**について調査し、今後の行政の参考資料とさせていただきます。

2 調査事項

「SDGs（持続可能な開発目標）について」

3 調査対象 第4期消費生活eモニター 33名 (回答者数25名・回収率76%)

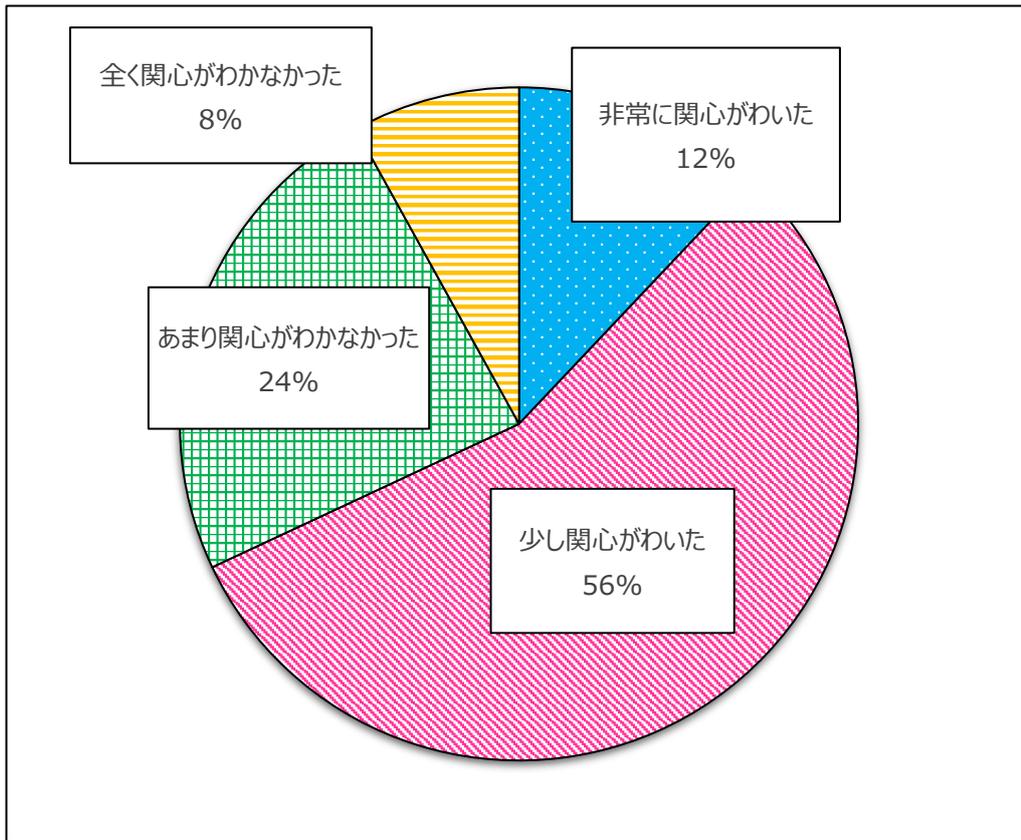
4 調査方法 市ホームページの回答フォームによる

- 集計結果について、四捨五入の結果や複数回答の集計によるため、合計が100%とならない場合があります。
- 調査結果中の「回答者数」は「調査対象者」から「未提出者」を除いた数としました。
- 自由回答、その他意見は一部抜粋。

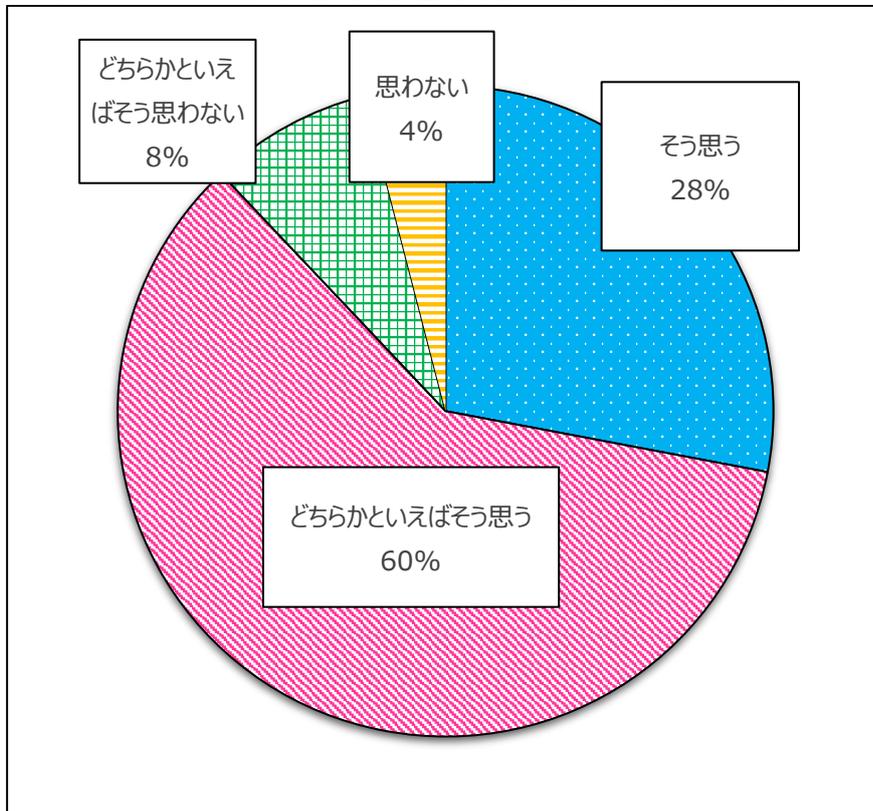


～SDGs（持続可能な開発目標）について

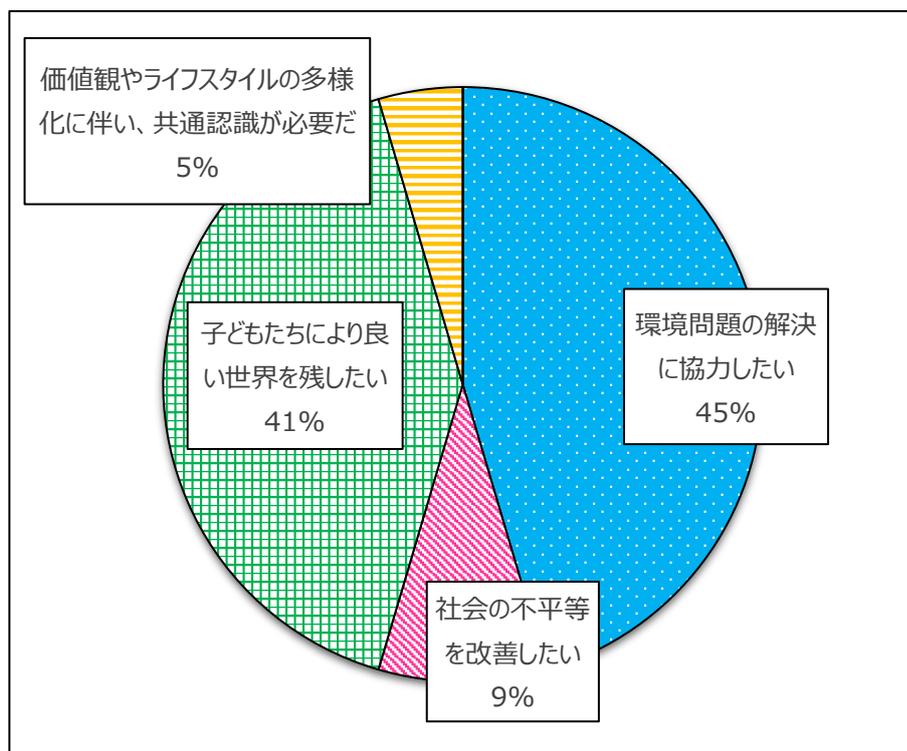
設問1 1年前と比べてSDGsへの関心にどのような変化がありましたか？



設問2 SDGsにつながる行動をしたいと思えますか？



設問3 設問2で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか？もっとも近いものをお選びください。



設問4 設問2で「どちらかといえばそう思わない」又は「思わない」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか？もっとも近いものをお選びください。

- 個人の一つひとつの行動が問題解決につながると思わない 2件
- その他 1件

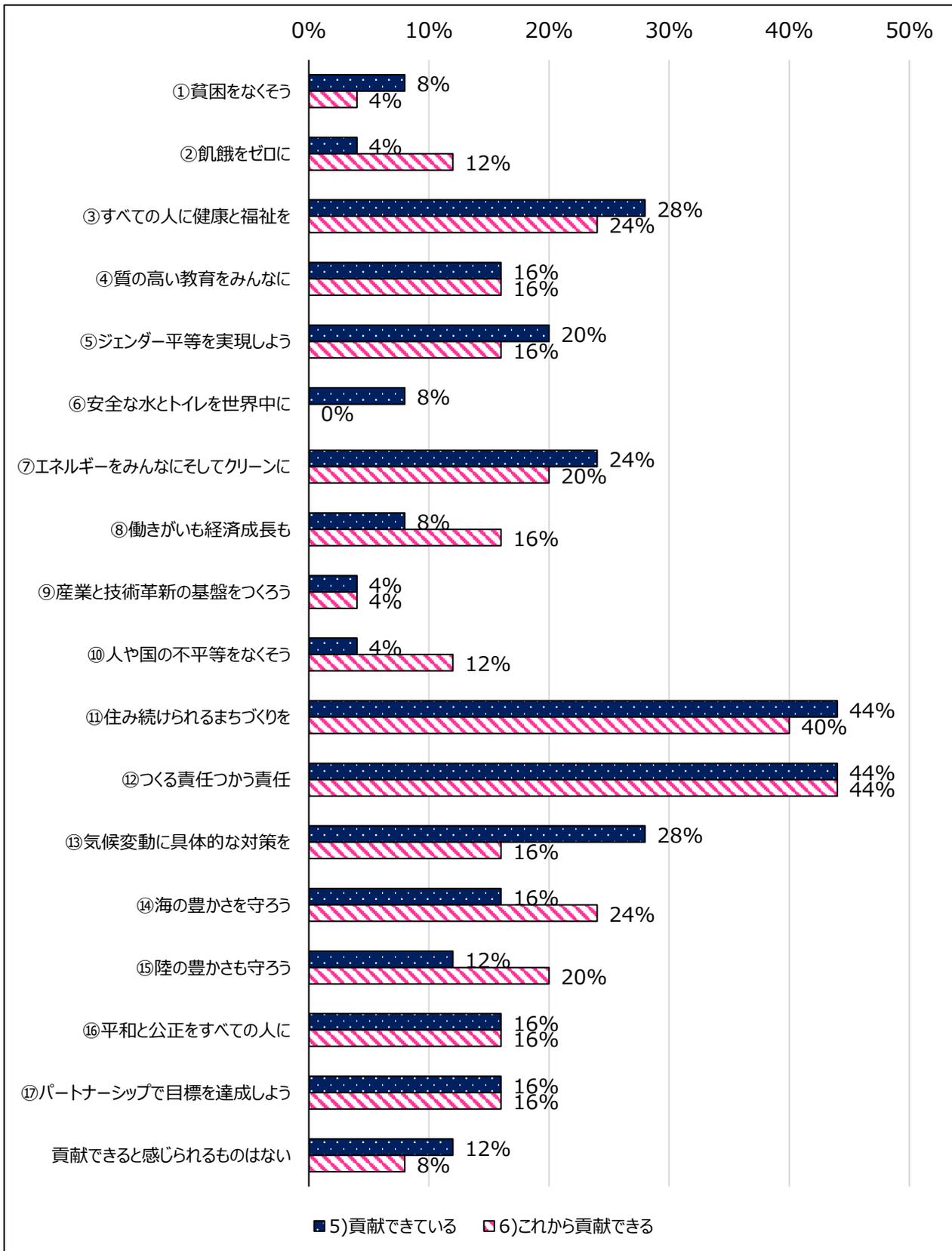
その他の内容

- SDGsの本来の意味が失われ、左派的な政治活動と化しているから。
- 政府等が税金を使って広報活動することは、税金の用途として大きな問題であるから。

※ 「SDGsの目標・ターゲットに興味がない」「ハードルが高い」「自分にできることがない(少ない)」「何をしたらよいか分からない」と答えた方はいらっしゃいませんでした。

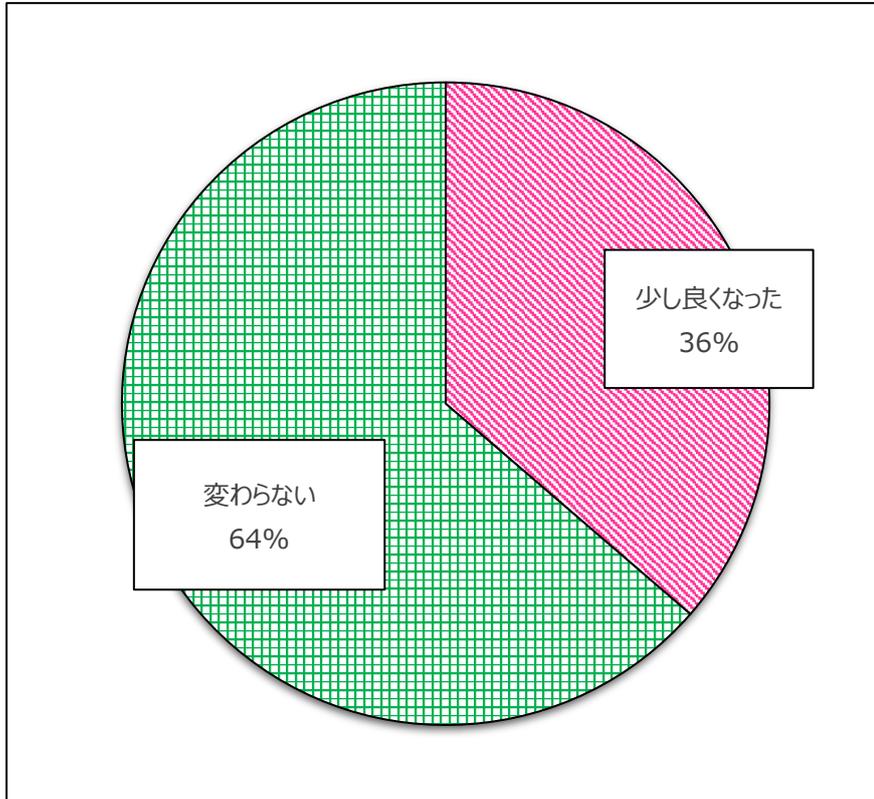
説問5 SDGsの17の目標のうち、ご自身で貢献できていると感じられるものはどれですか？（複数回答可）

設問6 SDGsの17の目標のうち、これから貢献できると感じられるものはどれですか？（複数回答可）



設問7 設問5で、「貢献できている」と感じる目標を選んだ方にお伺いします。SDGsの17の目標に貢献することで、ご自身やご家族の生活にどのように変わりましたか？

※ 「良くなった」「少し悪くなった」「悪くなった」と答えた方はいらっしゃいませんでした。



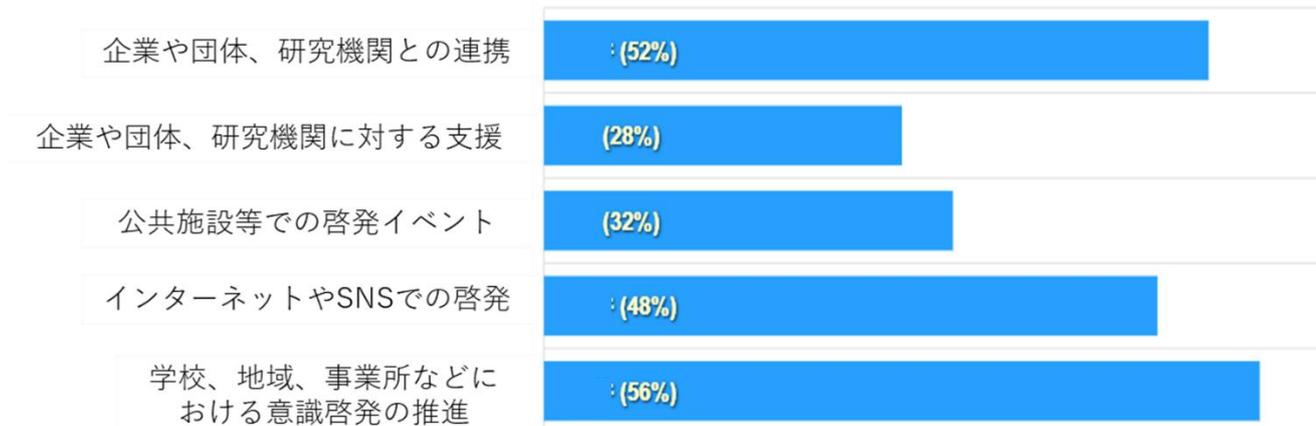
設問8 設問7で「良くなった」又は「少し良くなった」と回答した方にお聞きします。その理由をご記入ください。(150字以内)

- ごみ分別の推進や削減への関心が高まり、華美な包装を望まない風潮が見られるようになりました。
- リサイクルショップの活用が進み、家族で選ぶ楽しさを共有する中で絆が深まり、不用品の手入れや再利用を通じて物を大切に扱うようになりました。
- 課題と目標を設定して意識的に暮らすことで、少しずつ前進を実感しています。
- 環境活動を通じて地域や自分に貢献でき、気持ちや生活が豊かになりました。
- 後世の人や動物へ環境・モラルを引き継ぐ責任を自覚するようになりました。
- 買い物が減り、家計面でも助かるようになりました。
- 寄付によってわずかでも空腹を満たす支援につながったと感じています。
- 広報が行動や意識の変化に寄与しました。

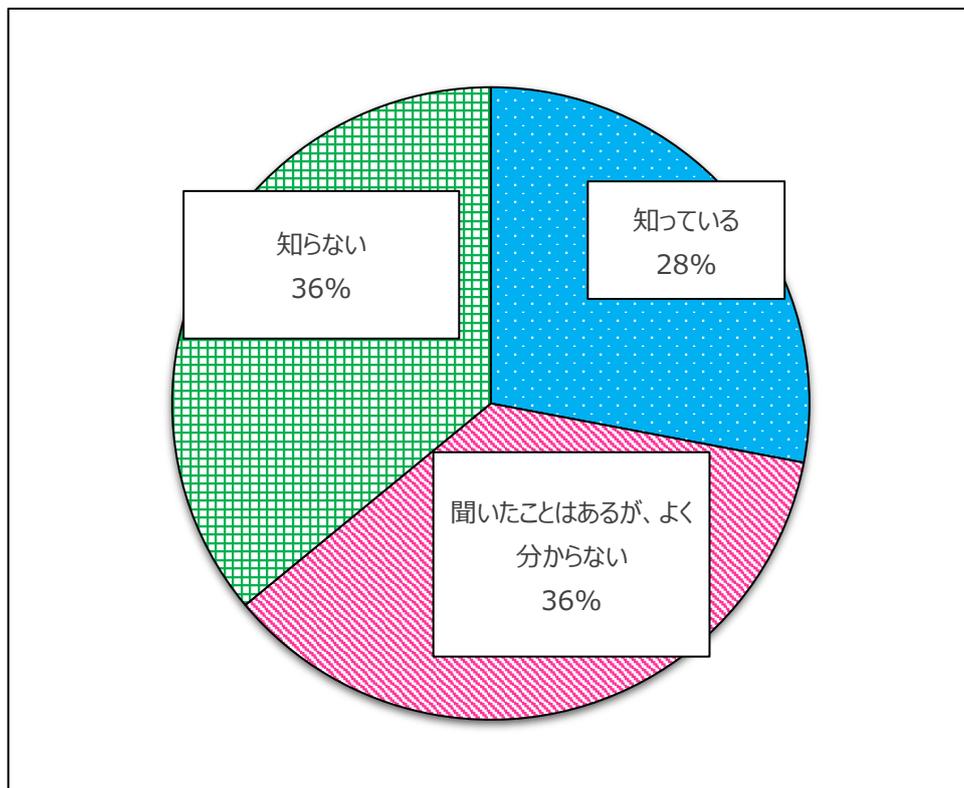
設問9 設問7で「悪くなった」又は「少し悪くなった」と回答した方にお聞きします。その理由をご記入ください。(150字以内)

※「悪くなった」又は「少し悪くなった」と回答した方はいませんでした。

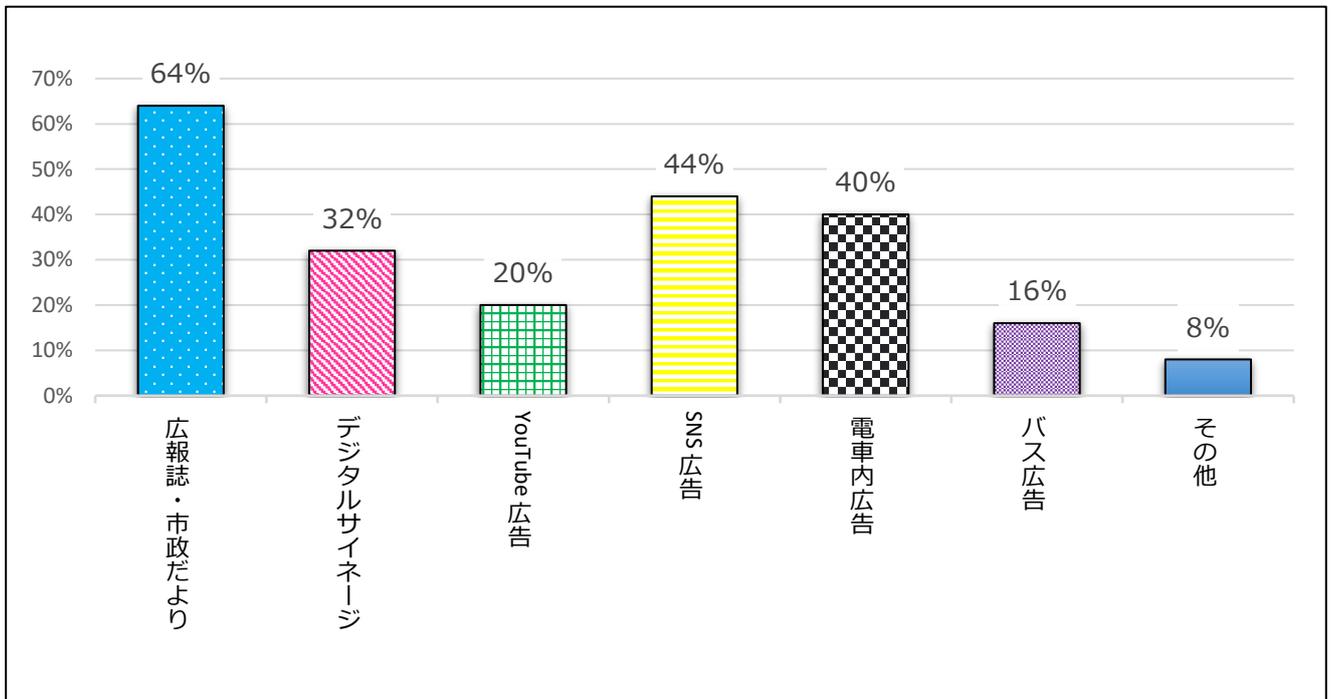
設問10 SDGsの達成に向けて、市内の取組を推進していくために、川崎市ではどのような取組が必要で効果的だと思いますか？(複数回答可)



設問11 「消費者市民社会」とは、消費者一人ひとりが自分達のことだけでなく、地域や将来生まれてくる世代、社会や経済、地球環境のことを考えて消費生活を行い、より良い社会を作るために積極的に参画する社会です。「消費者市民社会」を目指すことは、SDGsの目標達成に繋がると考えます。消費者行政センターでは、消費者市民社会の考え方や具体的な事例について、市ホームページ等で紹介していますが、ご存知でしたか？



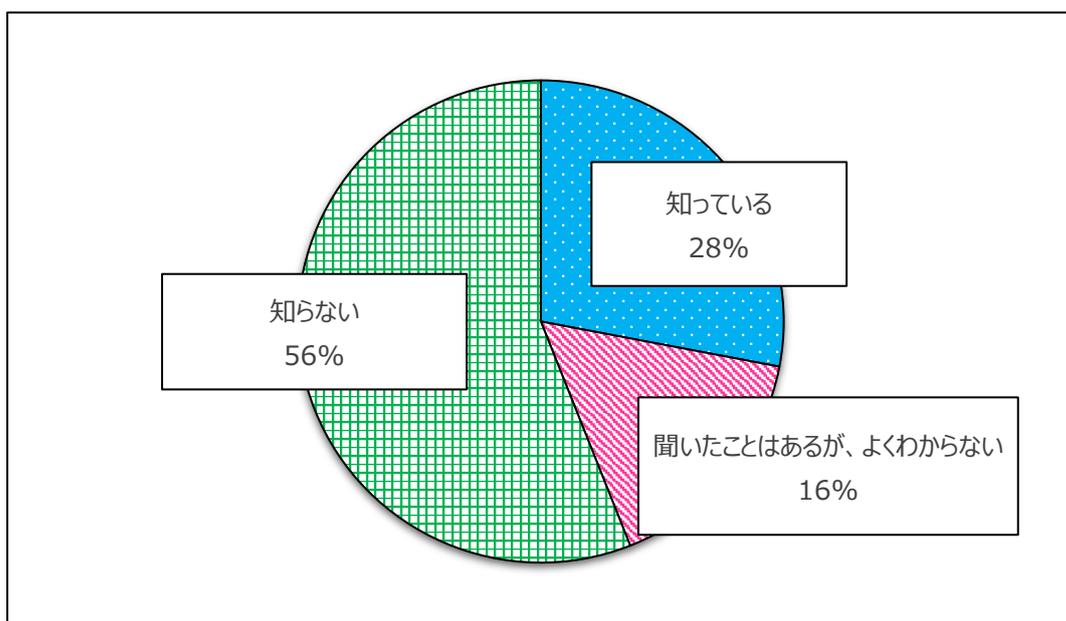
設問12 より多くの方が「消費者市民社会」について関心を持ち、理解を深め、行動するためには、どのような媒体で啓発することが効果的だと思いますか？
（3つまで回答可）



その他の内容

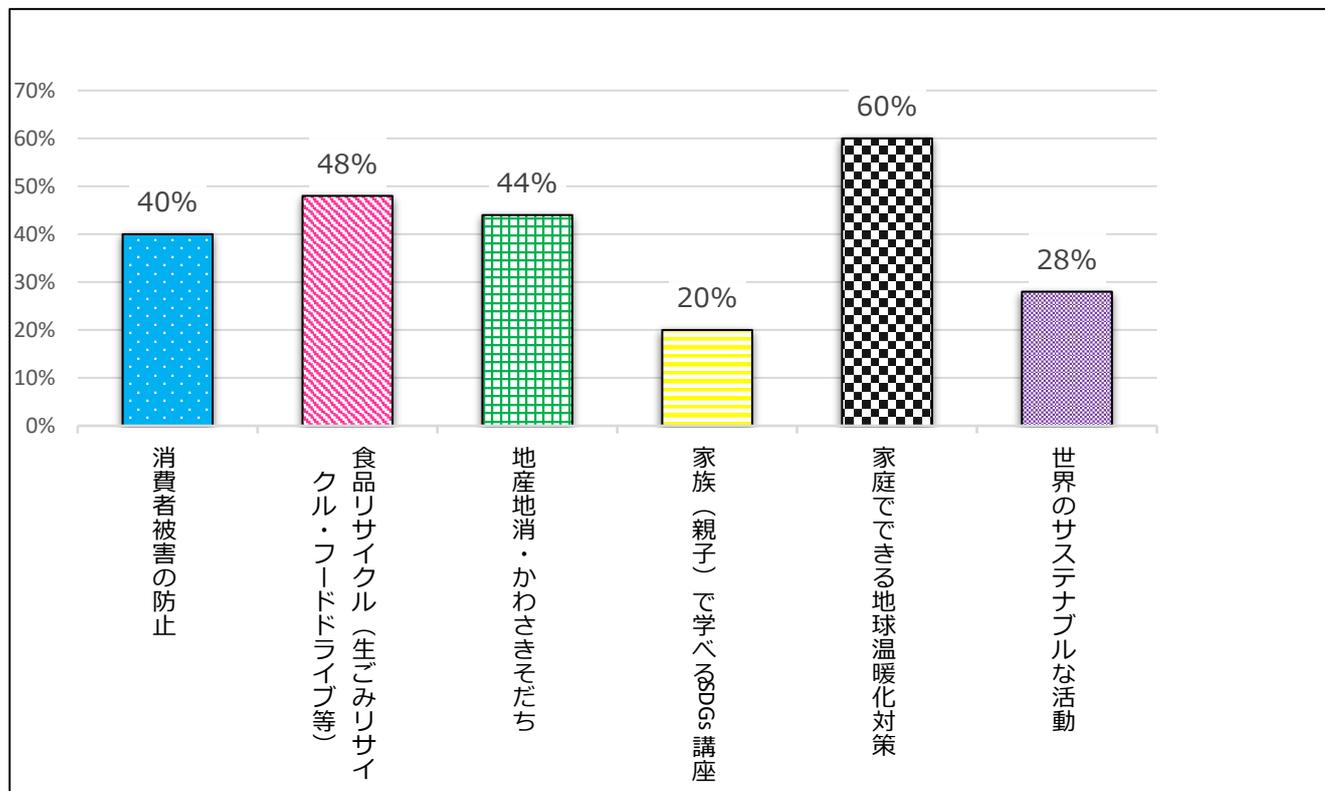
- 学校、地域の集会など、生の情報や体験などが身につくと思う。

設問13 消費者行政センターでは、身近な暮らしの問題について学んでいただくために、市内在住・在勤・在学の10人以上のグループ（任意・地域団体、企業、学校等）を対象に、ご希望に応じて講師を無料で派遣する出前講座「くらしのセミナー」を実施しています。ご存知でしたか？



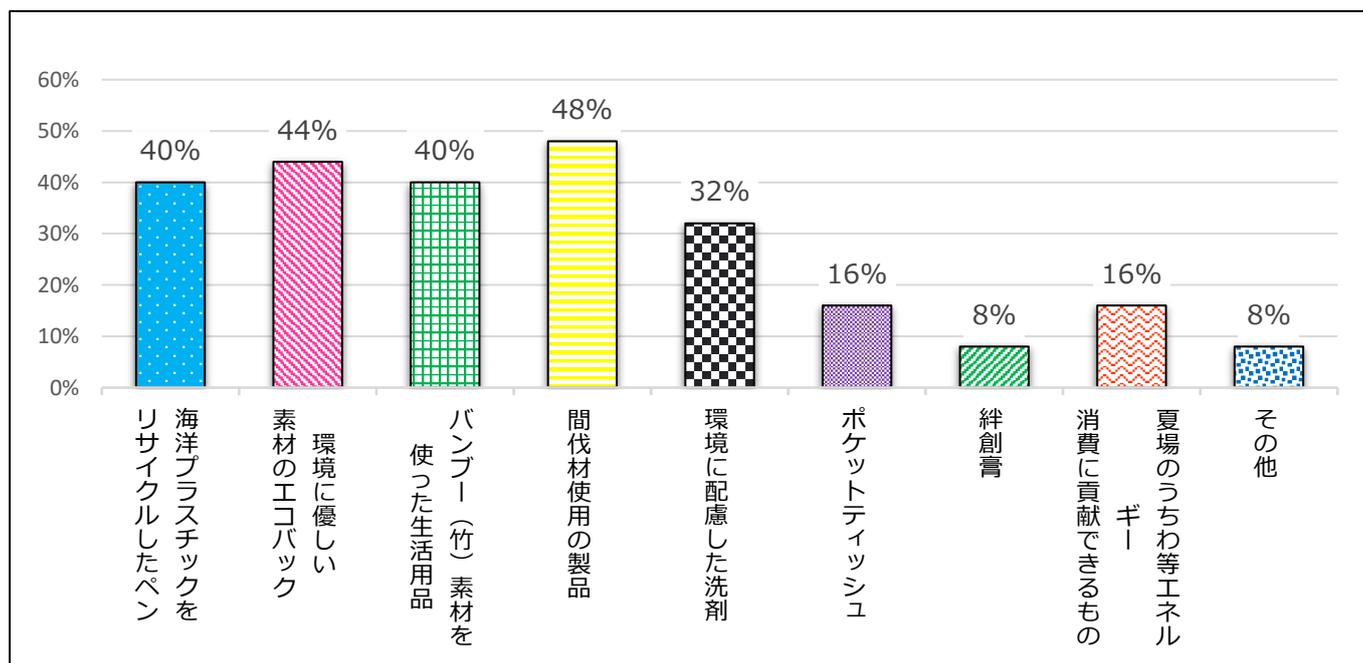
設問14 「くらしのセミナー」には、小学生から高校生向け、親子講座、一般・高齢者向けの講座があります。SDGs、消費者市民社会をもっとよく知るために、どのようなテーマの講座があれば参加してみたいですか？

(3つまで回答可)



設問15 消費者行政センターでは、消費者被害の未然防止、拡大防止のため、リーフレットや啓発物等を街頭キャンペーンなどのイベントで配布し、注意喚起を行っています。どんなグッズやノベルティがあれば良いと思いますか？

(3つまで回答可)



その他の内容

- スマホや家庭の電話機に貼ることができる、詐欺への注意を喚起するステッカー
- 「お電話番号を教えてください」「私ではわかりかねますので弁護士からかけなおしてもらいます」など、詐欺と思われる電話がかかってきた際の応答方法を上記ステッカーに印刷する



設問16 消費生活eモニターを経験して、SDGsに関する行動や考え方、取り組みはどのように変わりましたか？ご意見等を自由にご記入ください。（一部抜粋）

意識・学びの広がり

- SDGs を考える機会が増え、川崎市の取組を知ることで視野が広がりました。行動に直結しない場面もありますが、注意喚起の機会として役立っています。
- 地球温暖化など具体例と結び付けると理解しやすく、今後も学ぶ機会を活用したいと感じています。

生活の中の実践

- 節電・節水、公共交通の活用、過剰包装の回避、地産地消の選択、宅配のまとめ買いなど、日常の選択を見直すようになりました。
- リサイクルやリユースを意識し、不要品を手入れして長く使う・資源として循環させる行動が増えました。

地域・社会への関わり

- 森林や公園整備などのボランティアに参加し、活動の合間に消費者被害防止の情報共有も行っています。小さくても地域に役立つ行動を続けたいです。
- 寄付や地域での購入など、身近な範囲でできる貢献を心がけています。

ごみ・資源分別に関する意見

- 「捨てればごみ、分ければ資源」の周知や、過剰包装の抑制、ポイ捨て防止の徹底などを望みます。持ち込みが難しい家庭への配慮など、運用改善にも期待します。

行動定着の難しさ・迷い

- 意識は高まった一方で、何から始めるべきか迷う場面や、時間・家計・体力の制約で行動が続かないこともあります。継続しやすい具体例や支援情報の提示を望みます。
- 物価高など生活環境の変化で余裕がなく、社会的取組まで手が回らないとの声もありました。
- SDGs に関する価値観の普及について、行政がどのような根拠や方針に基づいて取り組んでいるのか、明確な説明が必要だと感じます。社会状況に応じて価値観が変化する可能性もあるため、情報提供や啓発に税金を用いることには慎重さが求められると考えます。今後も、納税者の立場から丁寧な説明や議論が進むことに期待しています。